

趣 意 書

東京大学では、「よりタフに、よりグローバルに」次世代を担っていく学生を育成するという教育目標を掲げています。

「タフ」という言葉には、知的な能力を学問の世界でさらに伸ばしていくと同時に、社会に出ても確実に通用しうる力に鍛え上げてほしいという思いが込められています。

「グローバル」という言葉には、国際社会がもつ多様性に正面から向き合いながら自分を成長させ活動していく「国境なき東大生」となってほしいという思いが込められています。

今日あらゆる場面でグローバル化がすさまじいスピードで進んでいます。こうした時代にリーダーとしての役割を期待される人間には、国際社会で競争し協調していく能力が求められます。

このような能力を培うために、これまで生きてきた世界とは異なった考え方や発想、異なった行動様式や価値観と触れあい、刺激を受けることが必要です。

このような教育目標を達成するため、正規の教育課程に加え、国内外を問わず実社会での多様な体験を得るための方策を検討しています。

どうか本学学生にこのような場を提供して頂きたい、よろしく願い申し上げます。

平成24年 5 月15日

東京大学総長 濱 田 純 一

平成24年5月

趣意書の補足説明書

体験活動の推進に関するワーキング・グループ

担当理事・副学長 武藤 芳照

WG座長 大和 裕幸

以下は、体験活動の推進に関する取組みを行うに当たり、趣意書の補足として説明するものですので、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

今年度、本学が実施しようとしている体験活動は、

1. 従前の就職活動を前提としたインターンシップ等とは異なり、「大学で何を学ぶか」等を改めて学生に考えてもらうための大学の行事として行います。
したがって、大学で学んでいる専門と直結するものでもなく、就職を前提にするものでもありません。
2. ギャップタームの検証も視野に入れておりますが、秋季入学の導入に直結するものではありません。
本学の教育目標である「よりタフに、よりグローバルに」学生を育成することを目指すものです。
3. 学部前期課程及び後期課程に所属する学生のうち、概ね300名～600名を対象に実施することとしています。（1学年の入学定員は3,063名です。）
4. 8月から12月までの間に実施します。概ね8月から9月の夏季休業期間での活動を想定していますが、10月から12月の期間でも活動内容（平日夕刻、週末の活動等）により学生が参加できる場合があります。
5. 活動別に責任者としての教員を配置します。
6. 教職員が体験活動の場へ出向き、視察等を行うことがあります。
7. 成績評価や単位の認定を行いませんので、受入れ機関に評価をしていただく等、ご負担をおかけすることはありません。
8. 参加した学生には報告書を提出する義務があります。報告書には本人が得た成果等について記載することになります。なお、提出された報告書は、学内で開催する体験活動報告会等で紹介することがあります。
9. 今年度の経験を踏まえ学内で評価・検証を行い、来年度以降の実施に係る検討を行います。